

農作物病害虫発生現況情報（4月）りんご編

1 腐らん病

(1) 開花直前の巡回調査における発生園地率は32.3%（平年34.2%）であり平年並だった（図1）。

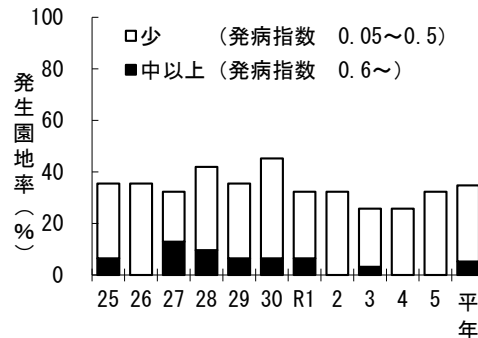


図1 腐らん病の発生園地率の年次推移（開花直前）

- ・少は発生指数0.04~0.5、中以上は発生指数0.5超。
- ・発生指数は10樹当たりの「胴腐らん+枝腐らん×0.1」。

2 リンゴハダニ

(1) 3月下旬の巡回調査における越冬卵の寄生園地率は、51.6%（平年31.4%）で平年よりやや高く、発生程度が中以上の園地率は、3.2%（平年1.3%）と平年よりやや高かった（図2）。

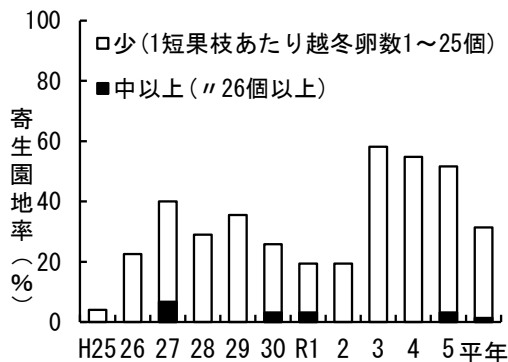


図2 リンゴハダニ越冬卵の寄生園地率の年次推移 (3月下旬、短果枝)

3 ナミハダニ

(1) 4月後半の巡回調査における花叢葉での発生園地率は16.1%（平年17.8%）で、平年並であった（図3）。

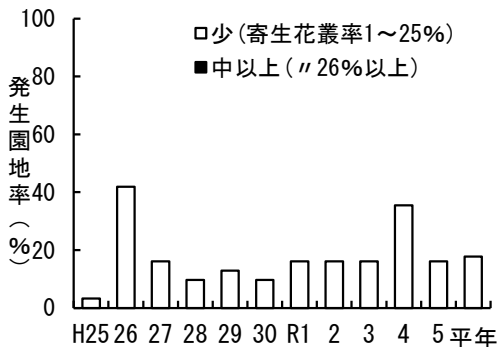


図3 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (4月後半)

4 ハマキムシ類

(1) 4月後半の巡回調査における発生園地率は6.5% (平年4.5%) で、平年並であった (図4)。

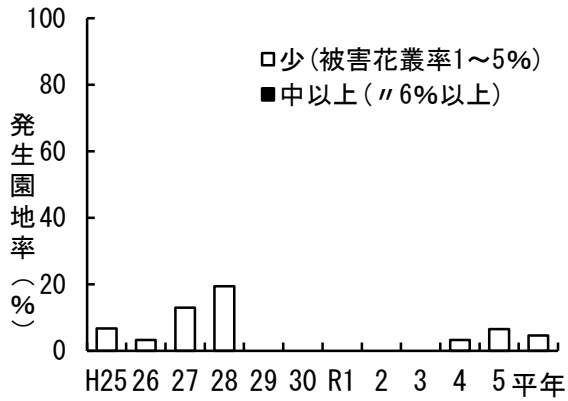


図4 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (4月後半)

5 アブラムシ類

(1) 3月下旬の巡回調査における越冬卵の寄生園地率は、61.3% (平年24.8%) と平年より高く、発生程度が中以上の園地率は3.2% (平年0.0%) と平年より高かった (図5)。

(2) 4月後半の巡回調査における発生園地率は67.7% (平年69.3%) で、平年並であった (図6)。

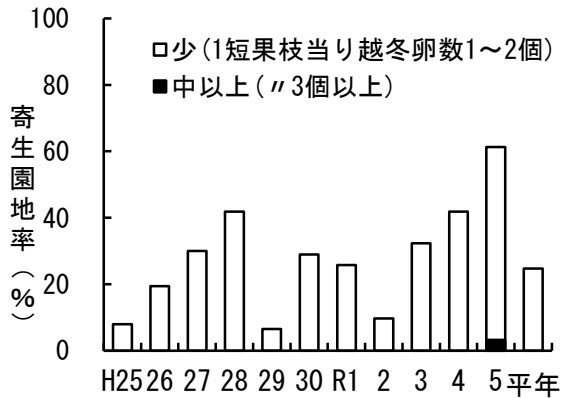


図5 アブラムシ類の寄生園地率の年次推移 (3月下旬、越冬卵)

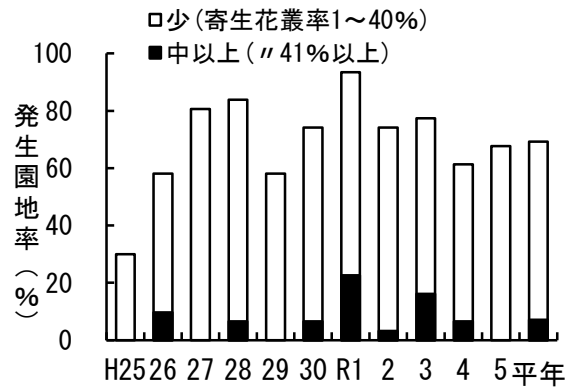


図6 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (4月後半)

6 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、平年より3半旬早い4月第2半旬に羽化盛期が認められた（図7）。
- (2) 4月後半の巡回調査における卵の発生圃地率は県中部で高く、県北部では見られなかった（図8）。
- (3) 前年の年間累計誘殺数が多かった現地圃地（奥州市前沢、盛岡市東安庭）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺数は、平年より多かった（図9）。

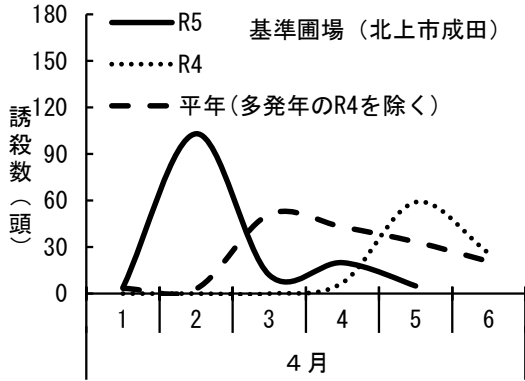


図7 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況

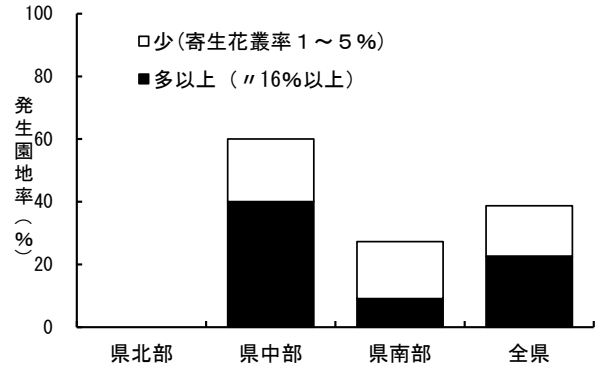


図8 キンモンホソガ卵の地域別発生圃地率（4月後半）

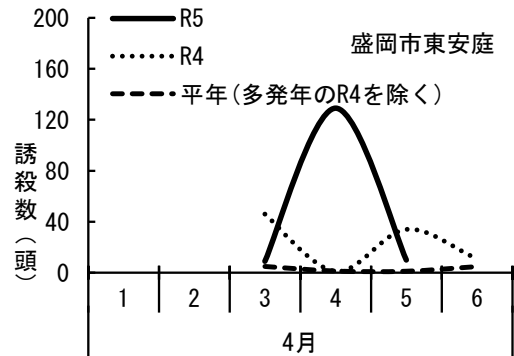
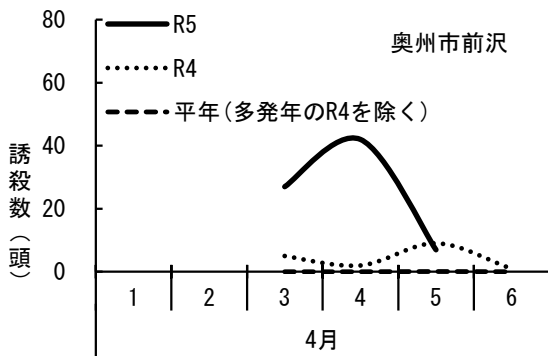


図9 現地圃地におけるキンモンホソガの誘殺状況
（左：奥州市前沢、右：盛岡市東安庭）

7 果樹カメムシ類

- (1) 簡易トラップによる令和5年のクサギカメムシの越冬量は、盛岡市では例年より少なく、金ケ崎町では例年並であった（表1）。

表1 簡易トラップによるクサギカメムシ越冬量
調査年 頭数/地点名

調査年	頭数/地点名	
	盛岡市	金ケ崎町
H30	575	8
H31	337	55
R2	379	67
R3	186	92
R4	637	61
R5	206	46
平均値	423	56
中央値	379	61

※簡易トラップは、りんご木箱に新聞紙を重ねて詰め込み、圃地内にある納屋の軒下等に設置した。

※平均値と中央値はH30～R4のデータを用いている。